

## 【早稲田大学】

## 世界に向けた教育内容の公開

石井 雄隆 ● 早稲田大学 大学総合研究センター助手

## 1 はじめに

早稲田大学は2015年9月に、1500万人を超える学習者が登録している大規模公開オンライン講座(MOOC: Massive Open Online Course) のプラットフォームの一つであるedxに加盟し、二つのコースを開設した。MOOCの開発・データ分析は、筆者が所属する早稲田大学 大学総合研究センターを中心として行っている。本稿では、これまでに開講した講座とグローバルMOOC配信の意義に言及し、最後に早稲田大学における今後のMOOCの可能性について紹介する。

## 2 これまでに開講した講座

第一弾の講座は、柴山知也教授によるTsunami and

Storm Surges: Introduction to Coastal Disastersであり、沿岸防災に焦点を当てた内容であった。この講座には、終了時点で2675人が登録し、修了率は9・4%であった。本講座の特徴的な取り組みとして、Redditというサービスを活用して学習者の質問に対してオンラインでリアルタイムに回答するAsk Me Anythingを行った。また、本講座はJack Kent Cooke Foundationの奨学金指定講座に選ばれ、講座を修了することが奨学金応募の条件となった。

第二弾として、戸田貴子教授によるJapanese Pronunciation for Communication という日本語の発音を対象とする講座を開講した。この講座には1万1165人が登録し、修了率は7・5%であった。特徴的な取り組みとしては、本編動画以外に「会話で学ぶ日本語発音&カルチャー」や「世界の日本語音声教育」、「シャドーイング練習用教材」などのさまざまなコンテンツの開発がある。また、アジアにおける日本語教育のニーズに鑑み、日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語の字幕・訳文を提供した。

前記の講座はいずれも、現在、再開講している。また、

第三弾講座として、池上重輔教授による Japanese Business Management の開講を予定している。

### 3 グローバルMOOC配信の意義

MOOCを用いて教育内容を公開することには多くの意義があるが、本稿では、広報ツールとしての可能性に言及する。

図1は、「早稲田大学について、当てはまるものをすべて選んでください」という設問に対する第一弾講座（n=849）および第二弾講座（n=610）の回答結果である。

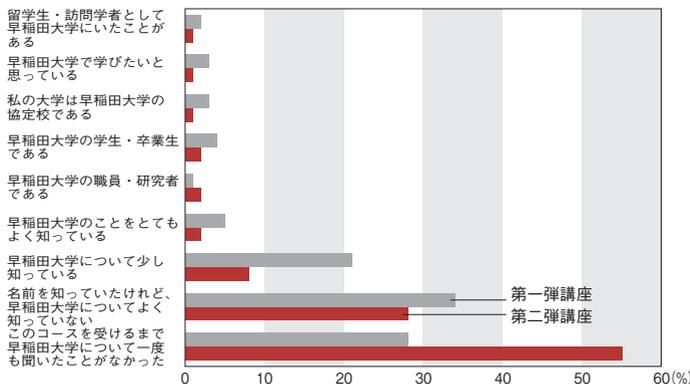


図1 アンケートの結果

第一弾講座については62%（524名）、第二弾講座については83%（506名）の学習者が、「名前を知っていたけれど、早稲田大学についてよく知っていない」または「このコースを受けるまで早稲田大学について一度も聞いたことがなかった」という回答であった。MOOCは、教育コンテンツとしてだけではなく、大学の広報ツールとしての可能性も持っていることが、結果から示唆された。

### 4 MOOCの今後の可能性

MOOCの今後の可能性としては、次の三点が考えられる。一点目は、学習履歴の解析に基づく新たな教育手法の開発である。これは、学習履歴を基にして、オンラインパスに新しい教育手法を導入することを指す。二点目としては、反転授業やSPOC (Small Private Online Courses) におけるMOOCの活用である。三点目は、MicroMastersへの対応である。これはオンラインで学位を取得することが可能なプログラムであり、こうしたプログラムの開発や正規科目としての取り扱いといった世界的潮流への対応も、今後検討していく必要があるであろう。